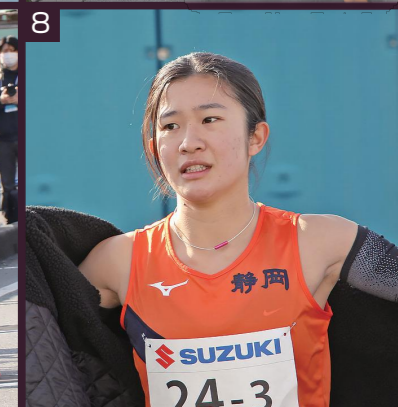




# 富士山女子駅伝

2022 全日本大学女子選抜駅伝競走



1\_2016年リオ・2020年東京オリンピック出場 鈴木亜由子さん 2\_中継所での一斉スタート 3\_熱い声援を送る岳陽中学校の生徒たち 4\_4年連続で静岡県選抜チームのアンカーを務めた吉原北中学校出身 金子由依さん 5\_第1回から第5回大会まで5連覇を果たした立命館大学 6\_霧で視界がかすむ中での開催 7\_新型コロナウイルス感染拡大後の体調チェックや検温の様子 【8以降は2022年大会】 8\_出番を待つ富士市立高校出身 滝澤かなさん(静岡県選抜) 9\_たすきを待つ選手たち 10・11\_たすきを受け取り走り出す 12\_名城大学4年生エース2人によるたすきリレー 13\_第6回大会から名城大学が5連覇を達成 14\_ゴール後の胴上げ 15\_大会前富士総合運動公園のごみ拾いをする誠信会の皆さん 16\_沿道に立つ交通整理ボランティア 17\_ボランティアとして手指消毒や検温を行うマンマー人技能実習生の皆さん 18\_走り終えた選手をサポートする市立看護専門学校の生徒 19\_選手たちを先導する静岡県警女性白バイ隊員 20\_沿道にて各地域の太鼓で選手たちを応援 21\_手作りパネルを持って応援(吉原商店街)

富士市・富士宮市を舞台に開催される「富士山女子駅伝」は、平成25年に富士山の世界遺産登録を記念してスタートし、令和4年12月30日で10回目を数えました。

県内では唯一の全国規模の駅伝大会である本大会は、大学女子日本一を争う大会として注目度が高く、毎年10万人を超える人たちが大会を盛り上げ、支えてくれています。

10回目となる今回は、24チームが出場。総距離43・3キロメートルの全7区間でレースが展開されました。

令和2・3年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、沿道での応援を自粛していたのですが、今回は感染症対策を徹底したうえで沿道や陸上競技場での応援を再開。3年ぶりに選手たちを応援する人々の姿が戻ってきました。

第1回富士山女子駅伝から今回に至るまでの歩みを振り返りながら、富士山女子駅伝の魅力についてお伝えします。

# 繋ぐ